

授業科目	臨床栄養管理演習				単位	1		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	NT32601J		
開講年次	4	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	渡邊 和美、坂田 郁子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>日本の人口の年齢別比率が劇的に変化して迎える「超高齢化社会」は、社会構造や体制が大きな分岐点を迎え、医療、福祉、介護など、さまざまな分野に影響を与えることが予想される。この 2025 年問題、2040 年問題を視野に入れると、社会保障費の増大、不足が予想されるほか、医療、介護分野の整備や少子化対策が急務となっている。そのため、医療分野では、「医師・医療従事者の働き方改革」として、タスク・シェアリング/タスク・シフティングのためのチーム医療等の推進が求められており、健康寿命の延伸のためにも、管理栄養士に課された役割は大きいと考えられる。そこで、医療・介護の分野で、個々人の栄養ケアプロセスをどのように学び、身につけていくのかは、臨床栄養管理の一つの重要な課題である。チーム医療の一員として、栄養診断を的確に行うためにはどうすればよいのか、栄養診断で明らかになった問題を解決するためには、何を計画すべきかの手順について、アクティブ・ラーニングを実施する。</p> <p>本科目では、臨床(医療・福祉施設)においてチーム医療を推進するための管理栄養士の役割と専門性を再確認する。また、医療従事者として、加齢に伴う身体の変化、身体障がい(視覚・聴覚含む)の食生活・食行動の理解を進め、栄養教育における留意点をまとめる。さらに、2025 年問題、2040 年問題に対して、栄養学(西洋医学)および中国伝統医学(東洋医学)の知識に立脚した薬膳を学び、実践する力を修得する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床(医療・介護)における管理栄養士の役割と専門性を理解できる。 2. チーム医療の一員として自立して栄養管理業務をプランできる。 3. 施設間や在宅との連携するための、栄養情報提供書を作成できる。 4. 薬膳について、基本となる考え方を習得する。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	75	25	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			20				20	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			20				20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			20				20	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)			15				15	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)				25			25	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
標準的なレベル 1~4 の全てを達成したうえで、知識に関しては、より詳細かつ丁寧に説明できる。また、修得した知識および技術を応用して、本実習のテーマ以外の傷病者への栄養管理方法を提示できる。				<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床(医療・介護)における管理栄養士の役割と専門性を理解できる。 2. チーム医療の一員として自立して栄養管理業務をプランできる。 				

			3. 施設間や在宅との連携するための、栄養情報提供書を作成できる。 4. 薬膳について、基本となる考え方を習得する。
授業計画			
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
			予習・復習時間(分)
1	テーマ:オリエンテーション(渡邊和美) 授業の概要について説明し、その履修方法や授業の目的、達成の目安、評価の内容と方法を理解する。	講義	予習:なし 復習:該当部分を理解する。
2	テーマ:症例から考える個々人の栄養管理(渡邊和美) 傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方を理解する。 参照ページ:p.1-10	講義・演習	予習:教科書で確認する 復習:該当部分を理解する
3	テーマ:症例研究、アクティブ・ラーニング説明(渡邊和美) グループ別に症例の選択を行い、栄養管理計画書を作成する。その後プレゼンテーションするまでを理解する。	講義・演習	予習:教科書で確認する 復習:該当部分を理解する
4	テーマ:症例研究、アクティブ・ラーニング準備1(渡邊和美) グループ別に症例の選択を行い、栄養管理計画書を作成する。その後プレゼンテーションするまでを理解する。	演習・グループワーク	予習:教科書で確認する 復習:該当部分を理解する
5	テーマ:症例研究、アクティブ・ラーニング準備2(渡邊和美) グループ別に症例の選択を行い、栄養管理計画書を作成する。その後プレゼンテーションするまでを理解する。	演習・グループワーク	予習:教科書で確認する 復習:該当部分を理解する
6	テーマ:症例研究、グループディスカッション1(渡邊和美) 症例から考える個々人を対象とした栄養管理の手法	演習・発表	予習:テーマと症例を予習する。 復習:栄養アセスメント、栄養関連検査の評価について復習を行う。
7	テーマ:症例研究、グループディスカッション2(渡邊和美) 症例から考える個々人を対象とした栄養管理の手法	演習・発表	予習:テーマと症例を予習する。 復習:栄養アセスメント、栄養関連検査の評価について復習を行う。
8	テーマ:症例研究、グループディスカッション3(渡邊和美) 症例から考える個々人を対象とした栄養管理の手法	演習・発表	予習:テーマと症例を予習する。 復習:栄養アセスメント、栄養関連検査の評価について復習を行う。
9	テーマ:症例研究、グループディスカッション4(渡邊和美) 症例から考える個々人を対象とした栄養管理の手法	演習・発表	予習:テーマと症例を予習する。 復習:栄養アセスメント、栄養関連検査の評価について復習を行う。
10	テーマ:症例研究、グループディスカッション5(渡邊和美) 症例から考える個々人を対象とした栄養管理の手法	演習・発表	予習:テーマと症例を予習する。

			復習:栄養アセスメント、栄養関連検査の評価について復習を行う。	
11	テーマ:在宅訪問栄養管理 1 (外部講師、坂田郁子) 在宅訪問栄養と歯科との連携による栄養改善について解説する。	講義	予習:嚥下調整食について調べる。 復習:訪問栄養指導についてまとめる。	30 30
12	テーマ:在宅訪問栄養管理 2 (外部講師、坂田郁子) 在宅療養者の栄養管理に必要な調理の基本について学ぶ。	講義・演習	予習:低栄養の原因および対策について調べる。 復習:在宅療養者の現状についてまとめる。	30 30
13	テーマ:女性のための薬膳1 (外部講師、坂田郁子) 薬膳(東洋医学)の基礎を学び、性差医療に着目し、女性の身体に特化した薬膳の考え方について解説する。	講義・演習	予習:テーマについて予習する。 復習:自分自身の体質・体調を確認し、取り入れるべき養生を実践する。	30 30
14	テーマ:女性のための薬膳2 (外部講師、坂田郁子) 薬膳(東洋医学)の基礎となる陰陽・五行学説、気血津液弁証を取り入れた女性のための薬膳について解説する。	講義・演習	予習:テーマについて予習する。 復習:自分自身の生理周期を確認し、取り入れるべき養生を実践する。	30 30
15	テーマ:臨床栄養管理演習の総括(渡邊和美)	講義	予習:臨床現場における管理栄養士の役割を予習し、まとめる。 復習:臨床現場における管理栄養士について復習を行う。	30 30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	これまで3年間学んできた基礎分野や専門分野の科目、全てを総合的に活用する科目である。すべての科目に関する理解が求められる。
テキスト	必要な資料は、適宜配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木純子編: 栄養ケアプロセス演習～傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方～(同文書院) ISBN:978-4-8103-1508-0 ・塚原丘美編: 臨床栄養学 Nutrition Care Process に沿った傷病者の栄養管理(医歯薬出版) ISBN:978-4-263-72034-9 ・本田佳子編: 栄養食事療法の実習～トレーニーガイド栄養ケアマネジメント～(医歯薬出版株式会社) ISBN:978-4-263-70824-8
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	臨床の現場では、様々な傷病者と課題を解決していくための対応力が求められるため、高齢者や傷病者の理解を深める必要があります。そのため、東洋医学、西洋医学問わず、体に取り入れる物質の様々な知識を獲得し、どのようにしたら合理的かつ包括的な栄養管理計画を立案できるか、課題解決するスキルを修得していきましょう。
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	レポート提出の詳細については、各テーマを担当する教員より説明する。レポートは評価後に返却する。発表は、授業中に評価コメントする。